

R 7 東北中学校相撲大会にかかわる申し合わせ事項

東北中体連相撲専門部

1 競技に関すること

(1) 出場基準

① 出場枠

団体戦の出場枠は各県最大4チーム、学年別個人戦は各学年ともに各県最大5名とする。

② 地域クラブ活動参加条件

地域クラブ活動から出場する場合は、(公財)日本相撲連盟に会員登録をすること。

③ 棄権の扱い

(公財)日本相撲連盟競技会規程に基づく。個人戦は相手選手が不戦勝。

(2) 選手変更

団体戦においては、原則として選手交代を1名まで行うことができる。監督会議以降の変更の場合は3試合前までに進行に選手変更用紙を届けること。(1名交代後に試合中のけが・体調不良等での選手交代が必要な場合については、医務委員が「競技続行は不可能」と判断した場合のみ2人目の交代を認める。)交代して退いた選手は以後の団体戦に出場することができない。

(3) 団体戦における順位の決定

団体戦における順位の決定は①勝ち数②得点の順で行い、予選3回戦の勝数得点の上位12チームが決勝トーナメントに進出する。同順位が複数ある場合は順位抽選を行い、12位校が複数ある場合は同点決勝戦を行う。なお、団体参加チーム数が16チーム未満の場合は勝数得点の上位チームから優秀8チームを選出する。

(4) 決勝トーナメント戦の抽選方法

① 団体戦

決勝トーナメント戦方式の組み合わせは予選通過順位とする。ただし、9位～12位のチームに関しては、抽選で組み合わせを決定する。(監督抽選)

② 個人戦

予選3勝の選手をできるだけシードとし、2勝の選手はオープン抽選とする。ただし、同一校から複数の選手が出場する場合は、できるだけ上位で対戦するような抽選を行う。

※「できるだけシードとする」とは、当該選手が2回戦から登場するように抽選を行うが、当該選手数によっては1回戦から登場する場合もある、ということである。

なお、各学年決勝トーナメント戦の抽選は大会1日目の全競技日程終了後に行う。

抽選は各県専門委員長による代表抽選形式で行う。抽選結果は、大会サイトで確認すること。

(5) 正選手2名のチーム同士が対戦した場合の取り扱い

当該チームの成績及び勝敗は、対戦結果により以下のとおり取り扱う。

① 団体予選

○ 2対0の場合 → 勝ったチーム：1勝2点、負けたチーム：0勝0点

○ 1対1の場合 → 両チーム：0勝1点

② 決勝トーナメント戦

1対1で勝敗が決しない場合は、両チームの代表1名による代表戦を行い、勝ったチームの勝ちとする。勝負は1番勝負とする。

(6) 参加団体数が奇数のときは、各回戦において最も得点の少ない団体(以下「最少得点団体」という。)を決定して予選を行う。

① 最少得点団体が2団体以上あるときは、抽選で決定する。

② 最少得点団体となれるのは、予選3回戦を通じて1団体につき1度だけとする。

③ 最少得点団体の成績については、得点の多い対戦結果をその回戦の公式の成績とする。

- (7) 個人参加者が奇数のときは、各回戦において敗戦選手（以下「敗者復活者」という。）の中から抽選で対戦相手を決定して予選を行う。
- ① 敗者復活者となれるのは、予選3回戦を通じて1度だけとする。
 - ② 敗者復活者の成績については、最終対戦結果をその回戦の公式の成績とする。
- (8) 競技に関する疑義

競技に関する疑義が生じた場合、監督は当該県の専門委員長を通じてその旨を申し出ることができる。ただし、勝負判定は当該審判員に限られるため、これに関する疑義は受け付けない。

2 監督・コーチに関すること

(1) 資格

団体戦に出場するチームの監督は、学校においては、引率者及び監督は出場校の校長・教員（非常勤は除く）・部活動指導員とする。ただし、個人戦にのみ出場する選手の監督は、他校の監督に代理監督を依頼することができる。外部コーチ・校外コーチは当該校の校長が認めた者とする。

その他の団体においては、同一競技内において、中学校体育連盟が主催する大会（予選を含む）で監督、コーチとして登録できるチームは1校（チーム）のみであること。

(2) 試合時の役割

監督またはコーチは団体戦において選手とともに土俵だまりに入場し、マナーを含めた選手へ指導を行う。ただし、個人戦では土俵だまりに入場することはできない。

(3) 服装など

監督及びコーチは競技の円滑な運営に協力するとともに、選手を指導する立場であることを自覚し、身だしなみや言動には十分に注意しなければならない。特に団体戦において土俵だまりに入る際の服装は次のとおりとする。

- 靴を履くこと。サンダルや雪駄などは認めない。大会が屋内で行われる場合は、この限りではない。
- 上衣は白を基調とした襟付きのシャツとする。Tシャツなどは認めない。
- 下衣は長ズボンまたはスカートとする。ハーフパンツなどは認めない。
- 土俵だまりではバッグやプログラム、帽子等は手に持たず、椅子の下の荷物入れに置くこと。
- 土俵だまりに入る際にはIDカードを必ず身に付けること。

3 競技者に関すること

(1) 競技服装

（公財）日本相撲連盟競技会規程第6章競技者規則の規定を順守して大会に臨むこと。まわしの結び目が長くなる場合は、あらかじめ切るなどして長さを調整しておくこと。

(2) マナー

競技を含め、大会期間中は言動に十分気をつけること。特に競技中のガッツポーズなど（土俵だまりを含む）は慎むこと。

- 土俵だまりに入る場合は、タオルは手に持つこと。首にかけて入らない。
- 土俵だまりには、ペットボトルや水筒を持ち込まない。

4 大会運営全般に関すること

(1) 監督会議に関して

監督会議の内容は、確実に資料を読み、理解を図ることとする。質問等がある場合には、監督会議で質問をすること。監督会議以降の質問事項等は各県の専門部委員長に連絡することとし、東北大会実行委員会へ直接連絡をしないこととする。